



# 信州の農業

発行所  
長野市大字栗田2142番地  
長野県農業卸商業  
協同組合  
TEL. (026) 228-5730  
FAX. (026) 228-5818  
定価 1部50円(税込)

## ■随筆■

### 「果樹殺虫剤テッパンと企業メッセージ」

石原バイオサイエンス株式会社  
東京支店 小林 祐太



平素より弊社の製品を「愛用いただき誠にありがとうございます。」

この度「信州の農業」の紙面をお借りし、果樹殺虫剤殺虫剤のテッパン液剤として、弊社からのメッセージをご紹介させていただきます。

引続きのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

【テッパン液剤】  
2018年5月に上市して以降、果樹及び茶の害虫防除ローテーションの1剤として県内外を問わず、広くご利用いただいております。

本剤はIRACの作用機構分類グループ28ジアミド系に分類される殺虫剤で、チョウ目害虫への防除を軸に、適用作物によっては、アザミウマ目、甲虫目、ハエ目、本年度全国的にも多発生となっております。カメムシ目を含む広範囲の害虫に登録を有しております。

近年では特定外来生物に指定されているクビアカツヤカミキリにも、小粒核果類・もも・おとこで登録を取得しており、「1回の散布で複数の重要害虫同時防除」を可能とする薬剤です。

2022年にはぶどうのハ

マキムシ類にも登録が拡大。2023年8月には、かきのハスモンヨトウにも登録を拡大いたしました。現在登録のある作物についても、更なる適用害虫の拡充が期待できるというところも本剤の魅力なのではと考えております。

製剤は、液剤タイプで果実等の汚れが少ないことも大きな特徴となります。ご紹介させていただきましたテッパン液剤を中心に皆様のご協力をいただき、本年度も多くの薬剤の試験に取り組んでおります。野菜場面でも定番のウララDF、ランマンFL、フロンサイドSC、果樹場面で定番のドーシヤスFL、ニルスターSC、新規剤のケンジャフロアブルなどがその代表例でございます。

これからもご当地の皆様を選んで頂ける薬剤となれるよう、普及活動に邁進してまいります。

◆豊かな食生活を支えるために。To support a rich life. 【プロフィール】  
1997年 大阪府生まれ  
2020年 石原バイオサイエンス(株)入社  
2022年 札幌支店、東京支店  
担当：長野県・山梨県・新潟県  
昨年7月より長野県を担当しております。

積の縮小や農業就労者の高齢化とこれまでに農業業界が厳しい環境となる一方で、世界規模では人口は確実に増加し、更に深刻な食糧不足が予測されています。

そのために、これからも、石原バイオサイエンス(株)は当社の製品が農業を通じて食糧増産のお役に立つのと同時に、消費者の皆様にとってより安全性が高く、より環境負荷の少

ない農業、そして農家の皆様に対してはより効果が高く、使用者の安全、農作業の省力化につながる製品の提供を目指して参ります。

## 害虫のはなし

### ○ナシヒメシンクイ

長野県におけるナシの主要害虫である。

【形態】ナシヒメシンクイはチョウ目ハマキガ科に属する小型の蛾で、成虫は体長5〜7mm、開張12〜14mmである。ふ化直後の幼虫は乳白色であるが、成熟するにつれて赤みを帯び、老熟幼虫は体長約10mmに達する。

【被害】老熟幼虫が樹上の樹皮の隙間で越冬しており、春先に蛹となり、ナシの開花前には羽化する。第1世代成虫はウメやモモなどに産卵。化幼虫は新梢へ食入し、芯折れを生じる。ナシ果実への被害は第2世代以降が中心で、幼虫が果実に食入する。果実の成熟期が近づくと被害が増える傾向がある。長野県では、1年間に3〜4世代が発生するとされてきたが、南信地域では近年5世代目の発生が確認されており、ナシの中晩生種での被害が目立つ。

【防除】本種は、ナシの他にウメ・モモなどにも発生する。このため、ナシ園の防除だけでは被害を防ぎにくい。7月上旬には第2世代幼虫による加害が見られるようになる。収穫期のナシでの被害を減らすためには、この第2世代の防除が重要であり、梅雨時期頃までは2週間間隔で防除する。続く第3世代幼虫

ご害虫のキノコバエ類など。このハエ達の最新の分類体系が知りたくなって購入してみました。400種程度をカラー写真で紹介した入門書であり、どのページをめくっても地味なハエかきなのだが、非常にわかりやすい構成と解説で、よい買い物をしたと満足している。

肝心のハモグリバエ類は僅か見開き2ページで、やっぱりマイナーなんだと実感。

は本格的にナシの果実を加害し、発生期間も長い。7月下旬以降は気温が高まり、卵期間が短くなるため、より重点的な防除が必要となる。殺虫剤の散布の他に、交信かく乱剤(コンフューザーN等)が有効であるため、地域全体での取組を検討する。なお、近年は9月以降も気温が高く、成虫の発生時期や年間の発生回数の変化などにより、中晩生種で被害が目立つことが多い。

また、7〜8月に降水量が多く、モモの新梢伸長が旺盛になると、モモ園でナシヒメシンクイの発生が増えることがある。ナシの早生種の収穫開始後もフェロモントラップにより誘殺消長を確認し、防除の打ち切り時期に注意する必要がある。本種による被害は有袋でも発生するため、晩生の「南水」でも注意が必要である。

【形態】カメムシ目に属し、吸血性の口器をもつが、主幹のような厚い樹皮を貫通して吸汁する能力はない。カイガラムシ類は体がロウ状物質やカイガラに覆われている。雌雄で形が異なり、雄は雌と比較して体が小さく、翅を有している。飛翔することができる場合が多い。

### ○カイガラムシ類

【被害】カキの果実のヘタ下などに潜り込み吸汁加害する。被害は主にすす病(排泄物にカビが発生し、ヘタや果実が

黒く汚れる)や果実の着色異常である。

【防除】防除適期は、幼虫がロウ状物質等に覆われていないふ化直後である。ふ化時期は種によって異なるため、発生種を確認し、種ごとのふ化時期に防除を行う必要がある。平成27年度普及に移す農業技術「果樹を加害する主要カイガラムシ類幼虫の発生時期」を参照されたい。

クワコナカイガラムシは、リンゴ、ナシ、モモ、ブドウなどで問題となる。本種は粗皮下などに産み付けられた、卵のう内の卵で越冬している。クワコナカイガラムシ幼虫のふ化時期は5月中下旬頃と7月上中旬頃、9月中旬頃の3回である。有袋栽培では、袋内に侵入して収穫期まで気付かないことが多いため、袋かけ前までにしっかりと防除を行い、袋の口をしっかりと閉じる。

フジコナカイガラムシは、南信地域特産の市田柿の主要な害虫である。主として幼虫が粗皮の隙間などで越冬する。年間の発生回数は3回と考えられ、幼虫のふ化時期は6月中下旬頃、8月中旬頃、9月下旬以降の3回である。若齢幼虫期が防除の適期であり、ふ化予測日付近に1回目の防除を行い、2回目の防除はふ化完了を待ち4週間程度間隔を開けて行うと効果が高い。

(南信農業試験場 福田勉)

とはいえ、参考とするためによく論文を読んでいたキツネノボタンハモグリバエやスイカズラハモグリバエが紹介されているし、農業害虫としてナモグリバエもちゃんと載っていて少し嬉しい。キノコバエ類は3科で5ページ、ナミキノコバエ科の解明度は30%とのこと、これから研究が進むことを期待したい。このほか、仕事の邪魔をされることみなさま、いかがでしょうか。

(濃眉蜂)

しぶといハダニはサラバでござる!

**ダニサラバ** フロアブル

虫にも病気にも効く新タイプの殺虫剤!

**ハチハチ** フロアブル

カイガラムシ類・チョウ目害虫防除に!

**オリオン** 水和剤 40

パワフルフルーツ殺菌剤!

**オーシャイン** 水和剤 フロアブル

新規系統のうどんこ病防除剤

**ショウチナスター** フロアブル

OAT アグリオ株式会社

**モベント** フロアブル

優れた浸透移行性で やっかいな害虫も見逃さない!

ぶどう、もも、かき、りんご、なし、おうとう

アザミウマ類、アブラムシ類、カイガラムシ類、ニセナシバダニ

優れた浸透移行性を有し、散布後、新葉にも有効成分が行きわたることで長い残効を示します。

バイエル クロップサイエンス株式会社

葉面散布用カルシウム肥料

**ストピットII**

STOP IT THE SECOND

果実のカルシウム欠乏症の予防、品質向上に

炭酸カルシウム水和剤

**クレフノン**

CLEF-NON

リンゴ、カキ、ナシの果面保護に

資料請求先 **白石カルシウム株式会社**

食品アグリ資材G/〒104-0031 東京都中央区京橋1-11-1 TEL. 03-3538-2354



当面の技術

7月・8月の病害虫対策

りんご・ぶどう・もも 果樹試験場 技師 島袋稚子(病害) 研究員 養島萌子(虫害)

りんごの病害

リンゴ褐斑病

近年、地域によって多発しており、早期落葉するため果実品質や樹体への影響が懸念される。本年、6月5日時点で場内の殺菌剤無散布樹での初発は確認されていない(昨年は5月22日)。6月下旬〜7月上旬は本病の二次伝染初期にあたり、この時期にベンゾイミダゾール系薬剤などの卓効を示す薬剤を散布することで効果的に防除できる。なお、ベンゾイミダゾール系薬剤に対しては県下で耐性菌が確認されている。本剤を散布しているのにも関わらず防除効果が認められない場合は、オンラインフロアブル、ユニックス顆粒水和剤47を散布する。散布むらは発生を多くする要因となるので、薬剤の到達性を向上させるため、枝吊り、徒長枝のせん定を行うとともに、SSSの走行経路や散布量についても見直す。

リンゴ炭疽病

高温・多雨の年には被害が多くなりやすい。果実への感染は6月〜9月頃まで起こる。円形で褐色のやや陥没した病斑を形成し、鮮肉色の分生子塊を生ずる。梅雨時期にあたる6月中旬から7月下旬は感染に好適な条件になりやすく、果実の感受性が高くなることから、この時期は間隔があきすぎないよう防除に努める。果実の病斑上に形成された分生子は二次伝染源となるため、発見次第、土中に埋める。県内ではQOI剤の耐性菌が確認されているため、注意が必要である。

リンゴ輪紋病

増加し始める第2世代成虫の発生始期(果樹試の平年で7月上旬頃)の防除が特に重要となる。その後も発生が多いようであれば、第3世代成虫の発生始期(8月上旬)に防除を行う。発生始期が平年と大きく異なることが予想されるので、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

伝染源は樹皮表面のいぼ皮病斑に形成された分生子であり、雨が多い6月〜7月が飛散のピークとなる。感染した果実は1〜3か月の潜伏期間後に発病する。罹病果からの二次伝染は起こらない。本病に対する果実の感受性は時期によって異なり「ふじ」の場合には6月〜8月中旬に感受性が高い。そのため、6月〜8月上旬にかけては、散布間隔があきすぎないように注意し、枝幹部にも薬液が十分にかかるようにする。

リンゴの虫害

シンクイムシ類

シンクイムシ類特にモモシンクイガの重要な防除時期である。6月上旬頃から発生する越冬世代成虫による幼果への産卵は、6月中旬頃からみられ始める。6月下旬頃より多くなり、7月中下旬頃まで続く。ふ化幼虫の食入防止を狙い、散布間隔が大きくあかないよう注意して防除を行う。また、被害果は集めて土中深くに埋めるなど適切に処分する。

ハダニ類

ハダニ類特にナミハダニ

ハダニ類特にナミハダニの発生時期はその年の梅雨明け時期に大きく影響される。特に梅雨明け後に高温・乾燥が続くと密度が急激に増加することがある。発生状況をよく観察し、発生始期に殺ダニ剤を散布する。

キンモンホソガ

キンモンホソガの第2世代、第3世代成虫の発生時期にあたる。食入した幼虫に対しては効果が劣るため、成虫発生始期に食入防止を目的として薬剤を散布する。密度が

増加し始める第2世代成虫の発生始期(果樹試の平年で7月上旬頃)の防除が特に重要となる。その後も発生が多いようであれば、第3世代成虫の発生始期(8月上旬)に防除を行う。発生始期が平年と大きく異なることが予想されるので、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

カメムシ類

南信地域においてカメムシ類が多発する恐れがあるとして、果樹カメムシ類の地区注情報が発出されている。多発年には7月以降も成虫が恒常的に果樹園へ飛来し、果実を加害するため、注意が必要である。飛来が多くみられる場合は、薬剤による防除を実施する。

ぶどうの病害

ブドウ晩腐病

梅雨期に散布間隔が空いた園地や袋掛けが遅くなった園地で多発しやすい。病原菌は結果母枝の樹皮組織、切り残した穂柄、巻きひげなどで越冬し、雨水とともに飛散・感染する。そのため、伝染源となる巻きひげなどの除去を徹底する。重点防除時期は落花直後以降、袋掛け前までであり、薬剤散布の間隔があきすぎないようにすることも、早めの袋掛けを心がける。

ブドウべと病

梅雨期に発病が多くなる傾向があるため、注意が必要である。感染は20℃では1時間、10℃では4時間と短時間で成立し、6〜7月では4〜7日の潜伏期間を経て発病する。展葉6〜8枚期以降が重点防除時期となるので、間隔が空きすぎないように、定期的に薬剤散布を実施し、予防を徹底する。袋掛け前まではほとんどに効果のある殺菌剤を概ね10日間隔で散布し、袋掛け後はボルドー液を8月下旬〜9月上旬まで2〜3回散布する。本病原菌は薬剤耐性菌が

出現しやすいため、耐性菌の出現リスクが高い薬剤は連用せず異なる作用機種の薬剤をローテーション使用する。なお、長野県内ではQOI剤耐性菌が蔓延しており、QOI剤はべと病防除に使用しない。

ぶどうの虫害

チャノキイロアザミウマ

6月頃から10月上旬頃まで成虫の発生がみられる。落花直後と発生が増加する7月初旬頃は重要な防除時期である。防除から袋掛けまで期間があかないよう、発生が多い場合は袋掛け後の防除も必ず実施する。

クワコナカイガラムシ

クワコナカイガラムシ第1

クワコナカイガラムシ第1世代ふ化幼虫が7月上旬頃から発生し、第2世代ふ化幼虫が8月中下旬頃から発生する。寄生が多い場合は、7月下旬に薬剤を散布する。

クビアカスカンバ

6〜8月に成虫が羽化する。成虫発生始期から落花10日後までと袋掛け後の7月下旬から8月上旬の2回、枝幹部に薬剤が十分にかかるよう丁寧に薬剤を散布する。なお、薬剤によっては果粒の小豆大期以降は、汚れや果粉溶脱が生じるため、注意する。また、幼虫の虫糞排出を確認したら、ロビンフッドを処理するから、幼虫を捕殺する。

た、被害果に生じる分生子によって二次伝染を繰り返すので、被害果はすくに取り除き、土中に埋める。

ももの虫害

シンクイムシ類

本県ではモモシンクイガによる被害が主である。近年、地域によってナシヒメシンクイの被害(新梢の芯折れ症状)もみられる。シンクイムシ類の防除は食入防止を目的に行う。防除時期は成虫の発生ピーク前後である。ナシヒメシンクイの防除時期はモモシンクイガよりも早いので、発生種に注意して防除を行う。

モモハモグリガ

第2世代、第3世代成虫の発生時期にあたる。第2世代以降、密度の急激な増加が

植防短信

農業危害防止運動が始まり1か月が経過したところでありますが、皆様には、農薬の適正な使用や販売にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。この運動に合わせ、(一社)長野県植物防疫協会及び全国農業協同組合連合会長野県本部との共催により本年も農薬適正使用研修会を6月4日にオンライン配信を中心として開催しました。当日は、生産者や防除業者、ゴルフ場関係者などをはじめとする農業業務に携わる大勢の方々にご参加いただき、農薬適正使用について学んでいただきました。

さて、今回は、先述の研修会資料の中でも取り上げ、長野県病害虫・雑草防除基準にも掲載されている「ミツバチに対する農薬使用上の危害防止対策について」をご紹介します。

みられることがある。幼虫が葉肉内へ食入してしまうと防除効果が低下するため、各世代の成虫発生始期(果樹試の平年で第2世代は7月上旬、第3世代は7月末から8月初め)に防除を行う。その年の気温によって発生時期が平年と大きく異なる場合があるので、各世代の発生始期について、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

クワコナカイガラムシ

有袋栽培で問題となる。7月下旬頃に防除を行う。

りんごと同様多発の恐れがあり、注意が必要である。飛来が多くみられる場合は、薬剤による防除を実施する。

カメムシ類

必要です。

②地域ごとに養蜂協会支部との協議の上、必要に応じて開催している「ミツバチ農業被害対策連絡会議(事務局・県農業農村支援センター)」において、農薬の散布時期や飼育場所などについて、情報交換を行ない、危害の未然防止対策に努めてください。

- ①ミツバチに影響があると思われる農薬の使用にあたっては十分な注意が必要です。
②農薬の使用にあたっては、農薬の使用上の注意をよく読み、その使用方法に従ってください。また、みつ源となる植物の生育状態等により、本来みつ源にならないとされる水稲にも花粉を求めて訪花することもありますので、ミツバチが活動している時(気温がおおむね13〜30℃となる時間)の農薬散布は、特に注意してください。
③探みつ時期には、みつ源となる植物には農薬が飛散することが無いよう注意が必要です。
④水稲のカメムシ防除時期となる開花期を挟み、その直前及び開花後2週間程度の時期はミツバチが水田に飛来することがあるため、水田の周囲の菓箱は退避が必ずやります。
⑤今後、無人航空機による空中散布も行われるため、農薬の散布にあたっては、ミツバ

ハダニの卵~若虫に効果を発揮! エコマイト 顆粒水和剤 ダニ防除剤 チョウ目害虫におすすめ! 兼商 ヨーバル フロアブル 害虫防除剤 病害とナメクジ類の同時防除に! 兼商 プロシールド 病害防除剤 アグロ カネショウ株式会社 関東支店 中部営業所 TEL. 026-224-1265

また、地形により風向き、風速は複雑に変化することも念頭においてください。(農政部農業技術課) 県植物防疫協会創立70周年 (一社)長野県植物防疫協会の創立70周年記念式典が5月30日、長野市にて盛大に開催されました。(一社)日本植物防疫協会の早川泰弘理事長(長野市出身)により「植物防疫をめぐる最近の動き」と題して記念講演がありました。(信州の農業事務局)

MBC の機能性展着剤 高濡れ性展着剤 ドライバー 「散布した瞬間、安心感が違う!」 ◎ぴたりと付着 ◎スツと濡れ広がる ◎汚れにくい ◎乾きが早い ◎殺菌剤との相性が良い りんご 多数採用 スカッシュ 「ハダニ防除の安定感が違う!」 ◎ハダニ、アブラムシ類、うどんこ病などの防除困難な病害虫に対し、殺虫剤・殺菌剤の薬効を安定させます MBC 丸和バイオケミカル株式会社



当面の技術

7月・8月の病害虫対策

野菜・花き

野菜花き試験場

研究員 石山佳幸(病害)
研究員 山岸 希(虫害)

【病害】

○アブラナ科野菜の黒斑細菌

黒斑細菌病はシユードモナス属の細菌によって引き起こされる。本病は罹病株が伝染源となり、降雨によって周囲の株に感染、発病が拡大していく。病気が進展し始める

○ブロッコリー黒すす病

本病はアルタナリア属の糸状菌によって引き起こされる。本病は育苗中の苗から収穫物の花蕾まで生育ステージ全般で発生が認められている。外葉の病徴は、初め小さな黒色点状の病斑を形成し、進行すると周囲が黄色の黒褐色の輪紋斑を形成する。外葉上に病斑を形成している

○アスパラガスの茎枯病

アスパラガスの生産上、大きな障害となっているのがこの茎枯病である。降雨によって分生子が飛散し、感染が広がっていくため、降雨が発生を助長している。防除対策は、耕種の防除と薬剤防除を体系的に実施することが重要である

○オオタバコガ

県内では8月後半から被害が大きくなる。本種の幼虫は若齢期を過ぎると果実や莖、結球葉菜類の結球内部へ侵入

○オザミウム類

夏秋イチゴではミカンキイロアザミウムやヒラズハナアザミウムが発生する。これらは、主に花や幼果に棲息するため、発生は花に息を吹きかける等で確認する。成虫の寿命が長く、夏季は2週間程度で世代を更新する。黄色く橙色の幼虫の発生を確認した際は、増殖が始まっているため、速やかに防除を行う。また、梅雨明け後の高温により施設内の密度が急激に増加することがあるので、発生状況を注意深く確認する。

【虫害】

7、8月は、高温条件により害虫の生育速度が速まる。主要害虫の特徴を、再度確認し、効果的な防除に努めたい。

○ナミハダニ

問題となるのは、主に施設である。雌成虫の体長は0.6mm程度であり、黄緑型と赤色型がある。25℃では約10日

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初めの基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出穂後に水田に侵入するが、イネカメムシは出穂前から侵入することも多く、出穂直後から被害が発生する。出穂期から乳熟期の加害は不稔を引き起こすため、減収被害が生じる場合もある。

【防除】

耕種的な防除方法は確立されていない。本種はイネ科雑草に寄生しないため、ほ場周辺等の草刈りでは被害が防止できない。このため、本種の発生地域では薬剤防除が必須となる。

トピックス

令和6年産米の作付意向
農林水産省の5月30日の公表によると、5年度実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県です。

日で1世代を繰り返す。1雌成虫あたりの生涯産卵数は100〜150卵といわれる。ナミハダニは、普段から糸を出して移動し、この糸が網状になることで葉液が虫体に到達しにくくなる。そのため、薬剤防除の際は、糸が網状になる前の、発生初期に防除することが肝要である。

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初めの基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出穂後に水田に侵入するが、イネカメムシは出穂前から侵入することも多く、出穂直後から被害が発生する。出穂期から乳熟期の加害は不稔を引き起こすため、減収被害が生じる場合もある。

【防除】

耕種的な防除方法は確立されていない。本種はイネ科雑草に寄生しないため、ほ場周辺等の草刈りでは被害が防止できない。このため、本種の発生地域では薬剤防除が必須となる。

トピックス

令和6年産米の作付意向
農林水産省の5月30日の公表によると、5年度実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県です。

トコーンでは、莖葉や絹糸、雌穂の先端部位が被害を受けやすい。食入後の防除では効果が劣るため、絹糸抽出期の防除を徹底し、食入を受けにくいよう注意する。特に8月以降に収穫する作型では、近年はアワノメイガと併発することが多い。アワノメイガ防除の際はオオタバコガも併せて防除できる薬剤の選択が望ましい。

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初めの基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出穂後に水田に侵入するが、イネカメムシは出穂前から侵入することも多く、出穂直後から被害が発生する。出穂期から乳熟期の加害は不稔を引き起こすため、減収被害が生じる場合もある。

【防除】

耕種的な防除方法は確立されていない。本種はイネ科雑草に寄生しないため、ほ場周辺等の草刈りでは被害が防止できない。このため、本種の発生地域では薬剤防除が必須となる。

トピックス

令和6年産米の作付意向
農林水産省の5月30日の公表によると、5年度実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県です。



図1 イネカメムシ成虫 (茨城県農業総合センター農業研究所提供)

斑點米カメムシ類の多くは出穂後に水田に侵入するが、イネカメムシは出穂前から侵入することも多く、出穂直後から被害が発生する。出穂期から乳熟期の加害は不稔を引き起こすため、減収被害が生じる場合もある。

耕種的な防除方法は確立されていない。本種はイネ科雑草に寄生しないため、ほ場周辺等の草刈りでは被害が防止できない。このため、本種の発生地域では薬剤防除が必須となる。

令和6年産米の作付意向
農林水産省の5月30日の公表によると、5年度実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県です。

Advertisement for NICHINO pesticides including products like ツインパリア, パレード15, アーデント, タニコグ, サイハロン, オキシラン.

Advertisement for AFAARM pesticides including products like アファーム, アファームエクセラ.

Advertisement for BASF pesticides including products like バスタ, セフィーナ DC, シグナム WDG.



話題の情報

イネ稲こうじ病に対する土壌改良資材とモンガリット粒剤による被害軽減技術

農業試験場環境部 研究員 中島宏和

【はじめに】

イネ稲こうじ病は主に土壌中の厚壁胞子が伝染源とな...

【土壌改良資材とモンガリット粒剤を組み合わせた場合の稲こうじ病に対する被害軽減効果】

土壌改良資材として転炉スラグの300kg/10a、生石灰の100kg/10aとモンガリット粒剤(以下、M粒剤)の10a当り3kgを出穂期2〜3週間前に湛水散布する処理

話題の巻

水田転作品目におけるドローン活用推進支援

■背景

佐久地域では、近年スマート農業機械の導入が進み、特にJAや企業が所有するドローンによる水田への農薬散布作業の受委託が増えている。

そこで一昨年、水田転作品目として導入したかぼちゃのアブラムシ類に対するドローン防除の効果を県内で初めて確認した。

を組み合わせた処理の稲こうじ病に対する被害軽減効果を2019〜2021年に信濃町の稲こうじ病常発圃場(黒ボク土壌)で実施した。

2020年は2019年とほぼ同等の効果であったが、2021年には各処理の無処理に対する株あたり病粒数は資材単独で20〜30%、組み合わせた処理で約70%の減少となり、被害軽減効果が認められた。

2020年は2019年とほぼ同等の効果であったが、2021年には各処理の無処理に対する株あたり病粒数は資材単独で40〜50%の減少となり、高い被害軽減効果が認められた。

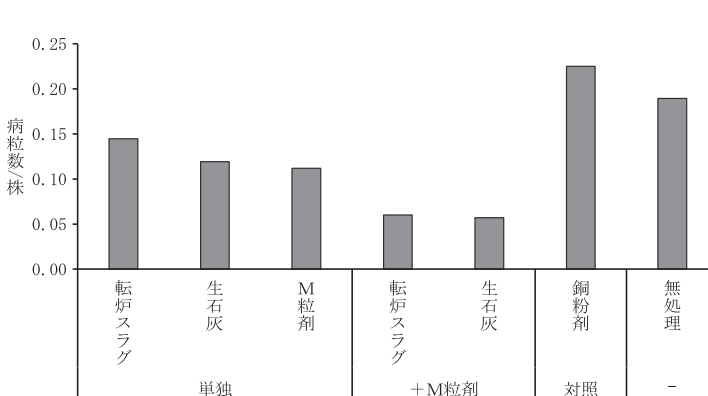


図1 土壌改良資材とモンガリット粒剤の稲こうじ病に対する被害軽減効果 (2019年)

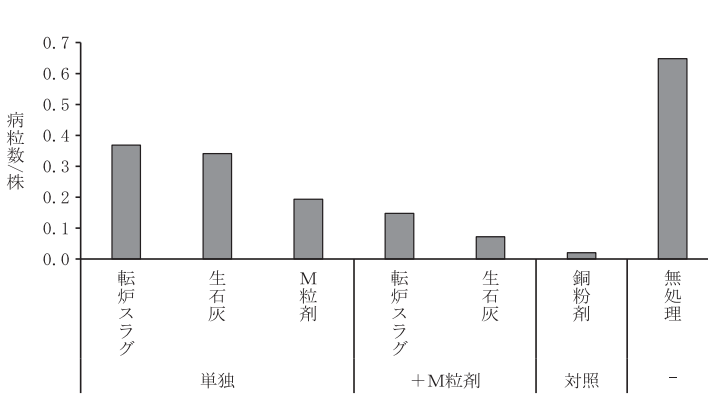


図2 土壌改良資材とモンガリット粒剤の稲こうじ病に対する被害軽減効果 (2021年)

昨年、かぼちゃうどんこ病に対するドローン防除の効果確認を行うとともに、ドローンの導入および適正利用の推進を目的とした啓発活動を行った。

分葉液がからなかったためと考えられた。一昨年のアブラムシ類を対象にした試験では、ドローン区においても散布3週間後までアブラムシ類の発生を抑制できており、対象病害虫の違いにより効果に差があることが明らかとなった。

知ることができた。昨年8月7日に若手水稲農家の団体である「穂たの会」にてドローン活用をテーマに勉強会を開催した。販売代理店の担当者や講師に招き、ドローンに関する状況や利用のポイントを学ぶことができた。

【質問】市田柿に条紋が発生しています。原因と対策を教えてください。 【回答】カキに発生する条紋は果実に発生する生理障害の1つです。果頂部付近の果実表面に同心円状の細かい亀裂が発生する障害で、発生果実は果皮が裂皮し、傷にそって筋状の黒変を生じます。

部の品種では発生が多く、年によっては大発生します。条紋の発生要因については詳しい仕組みは明らかになっていませんが、「市田柿」での条紋の発生については、過去の調査(市田柿ブランド推進協議会実施)から、成熟期後半以降の降雨が影響していると推測されています。

ダコニール 1000. 病害の予防・同時防除. タニール1000がコスト削減の第一歩! 70種類以上の作物、およそ180種類の病害に登録. 病害防除に役立つ情報を写真とイラストで紹介. タニール倶楽部 Daconil Club. 株式会社 エス・デー・エス バイオテック

ムッシュポルデー DF. 銅水和剤. 手軽に運べてらくらく防除! ●ぶどう ●もも ●ネクタリン ●おうとう ●小粒核果類 (あんず、うめ、ずもも). 日本曹達株式会社. 信越営業所 新潟県上越市中郷区藤沢950 TEL.0255-81-2323